

県土整備部の重点施策



・ 高速道路ネットワーク等の整備促進	・ ・ ・	1
・ 県内幹線道路ネットワークの整備推進	・ ・ ・	2
・ 市街地交通の円滑化の推進	・ ・ ・	3
・ 災害時の避難や救援等に備えた道路の整備	・ ・ ・	4
・ 水害・土砂災害対策の推進	・ ・ ・	6
・ インフラ耐震対策の推進	・ ・ ・	1 1
・ インフラの老朽化対策（長寿命化の推進）	・ ・ ・	1 3
・ 良好な景観づくりの推進	・ ・ ・	1 7
・ 安全・安心な道路環境の確保	・ ・ ・	1 9
・ リニア駅周辺整備の推進	・ ・ ・	2 0
・ i-Constructionの推進	・ ・ ・	2 1

重点施策の具体例

高速道路ネットワーク等の整備促進



山梨県の高速道路の状況

新潟市



中央道・小仏トンネル付近の渋滞対策
小仏トンネル付近（上り線）別線トンネルによる渋滞対策



県際道路の整備促進
東富士五湖道路と新東名の連結強化
⇒国道138号須走道路・御殿場バイパスが2021年4月10日に開通！



中部横断自動車道と南アルプス眺望



中部横断自動車道 富士川大橋
(下部温泉早川IC～南部IC間)

○中部横断自動車道の概要

- ①長坂～八千穂高原IC L≒40.4km
環境影響評価及び都市計画決定の手続き中
- ②南部IC～下部温泉早川IC L≒13.2km
2021年8月29日開通！！
⇒これにより静岡～山梨間が全線開通！



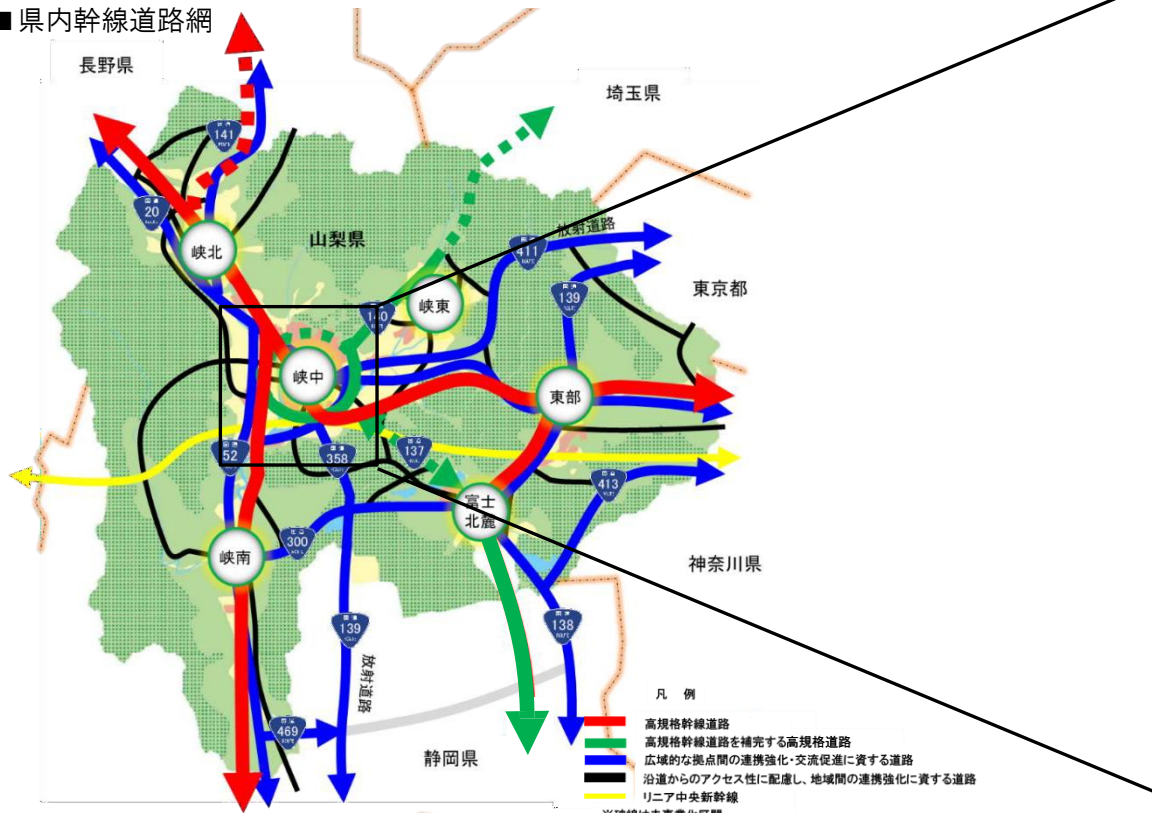
〈県の役割〉
国土交通省又は中日本高速道路(株)と連携し早期整備を実現させる

県内幹線道路ネットワークの整備推進

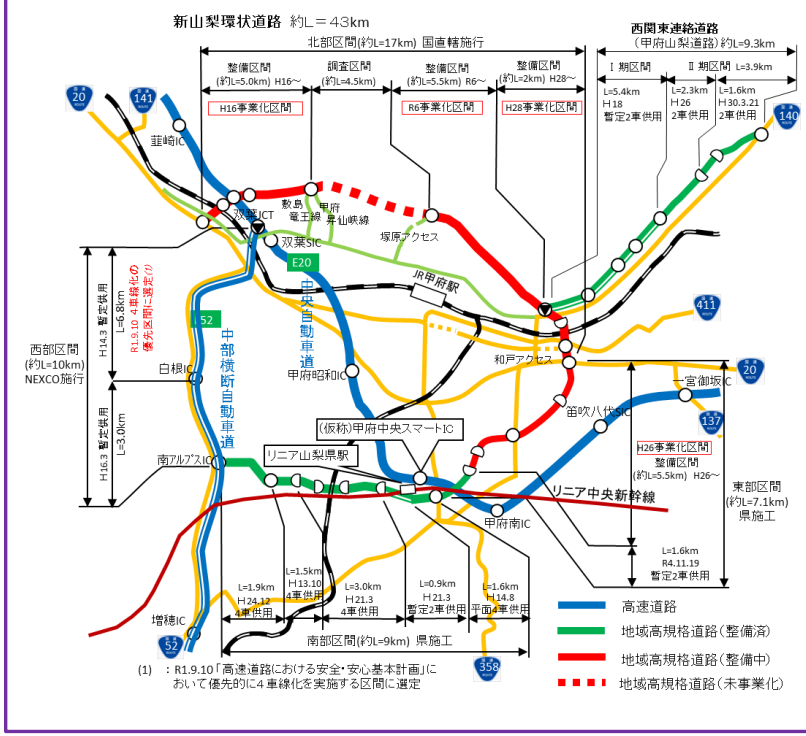


～県内拠点間を円滑に連絡し交流と連携の強化や利便性の向上につなげる道路ネットワークの整備・強化～

■ 県内幹線道路網



甲府都市圏の地域高規格道路 概要図



国道300号 中之倉バイパス



国道140号 新山梨環状道路東部区間



国道411号 上萩原皿期バイパス

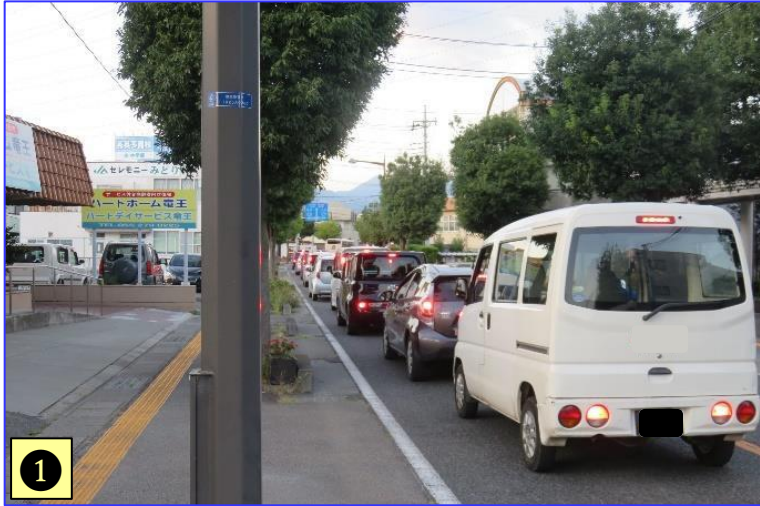


市街地交通の円滑化の推進

～地域間の連携強化やまちづくりのための道路整備の推進～

都市計画道路 田富町敷島線(バイパス)の整備

現道の渋滞状況

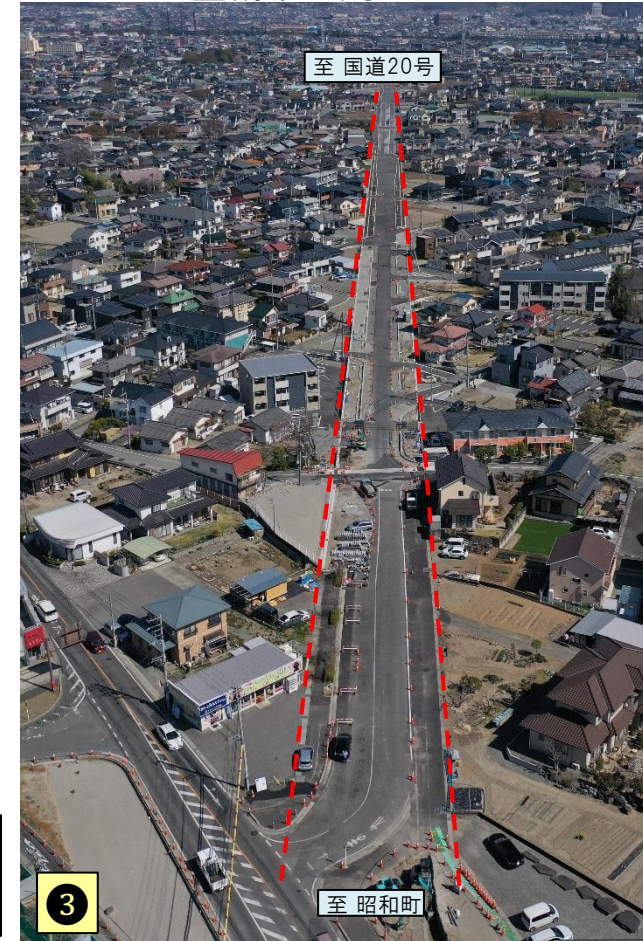


整備中区間の状況



甲斐市から昭和町方面の渋滞緩和に寄与します。

整備中区間の状況



災害時の避難や救援等に備えた道路の整備

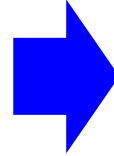
～台風や地震時における電柱の倒壊による交通の遮断防止～



○事業概要

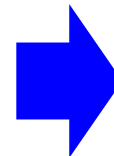
災害発生時の電柱倒壊により、救助や物資輸送を担う車両などの通行が遮断されないよう、道路上の電線類の地中化を推進しています。

国道358号



甲府市上今井地内

(主) 甲府韮崎線



甲府市塩部地内

災害時の避難や救援等に備えた道路の整備

～緊急輸送道路などの防災危険個所の解消～



○事業概要

災害時に所要の機能が果たせるよう、緊急輸送道路や事前雨量規制区間の防災危険箇所の解消に重点的に取り組んでおり、落石、法面崩壊など、災害発生の危険性が高い箇所の対策工事を推進しています。

国道358号

防災(法面)工事の推進 国道358号



整備前(被災時)



整備後



水害・土砂災害対策の推進

～あらゆる関係者により流域全体で行う水災害対策「流域治水」の本格的展開～



流域治水の概要

- 気候変動により想定を超える降雨が発生するなど、**水害リスクが増大**しており、これまで進めてきた河川整備だけでは、被害を防止することが困難となっています。
- これまでの河川整備に加え、**河川の外で雨水の流出を抑制する対策や被害を軽減する対策を組み合わせ**た「**流域治水**」という考え方が必要となっています。
- 「**流域治水**」は、**流域のあらゆる関係者(行政、住民、企業)が協働し、対策に取り組むことが重要**となります。

県の取り組み

- 流域治水の必要性の高い流域毎に国・県・市町村の関係部局からなる「**流域治水検討会**」を立ち上げ、効果的な対策等を検討し、アクションプランを策定しています。
- また、アクションプランの実効性をさらに高めるために、横川流域を県内で初めて「**特定都市河川**」に指定しました。

流域治水対策のイメージ



流域治水対策アクションプラン



特定都市河川に指定

- 「流域治水」を推進するため、解説動画の作成や各種イベントに参加しています。



解説動画
山梨県公式YouTube(山梨チャンネル)



防災イベントでのブース出展



水害・土砂災害対策の推進

～ハード対策（洪水対策）～

河川改修【一級河川 鎌田川(富士川水系)】



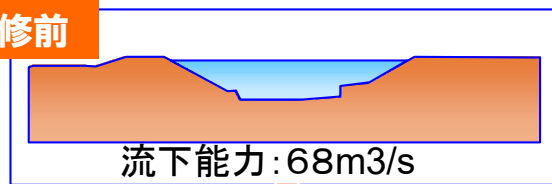
改修前



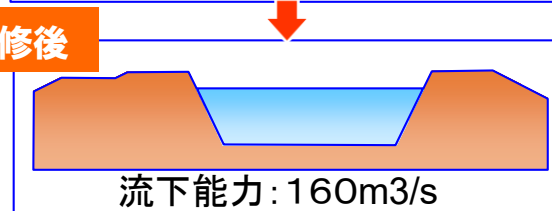
改修後



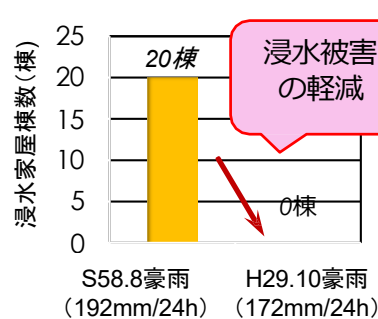
改修前



改修後



浸水家屋棟数



水害・土砂災害対策の推進

～ハード対策（土砂災害対策）～



砂防堰堤の整備（土石流対策）



H30.8 台風第20号による土石流

土砂の流出により、市道及び県道四日市場上野原線が被害を受け、家屋2戸で床下浸水が発生した。

- ・災害関連緊急砂防事業を実施
工事概要：砂防堰堤工（透過型）
H=9.5m L=38.0m V=1,165m³

急傾斜地崩壊防止施設の整備（がけ崩れ対策）



H27.7台風第11号によるがけ崩れ

要配慮者利用施設に隣接する斜面において、幅26m・高さ14mにわたる崩落が発生し家屋半壊1戸の被害を受けた。

- ・災害関連緊急急傾斜地対策事業を実施
工事概要：吹付法枠工 A=909m²
鉄筋挿入工 N=188本

土砂流出下流端状況

崩壊地

透過型砂防堰堤完成

土石流氾濫想定区域

都留市道

要配慮者利用施設（保育園）

県道 四日市場上野原線

被害発生

【被災状況】

被害発生

【対策後】

災害における対応の他、危険な箇所におけるハード対策事業を計画的に実施している。

水害・土砂災害対策の推進

～ソフト対策（土砂災害対策）～



○防災気象情報配信サービス(旧山梨県災害情報メール※R8.7月から新サービスに切り替え予定)

気象警報・注意報、土砂災害警戒情報など、事前に登録された携帯端末に情報発信

○土砂災害警戒情報に関する緊急速報メール

土砂災害警戒情報発表時に対象市町村内の携帯端末に情報発信

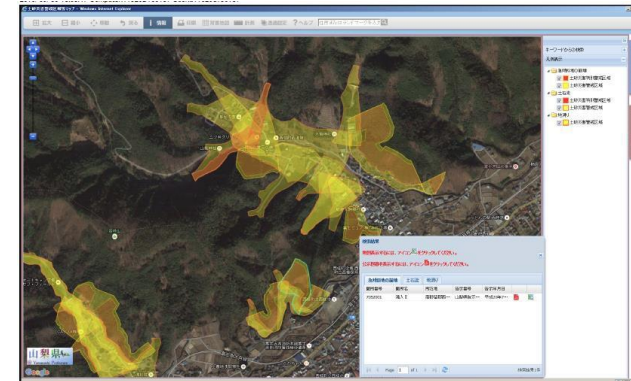


○土砂災害警戒区域等マップ

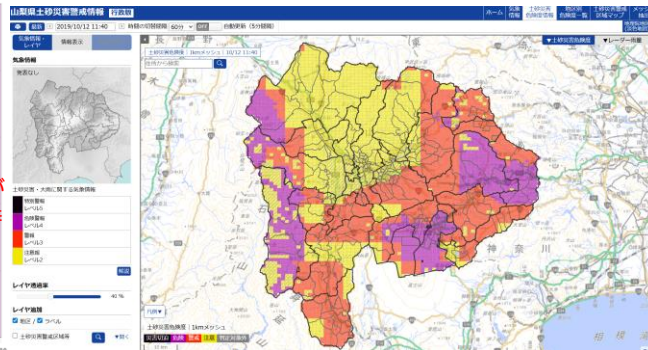
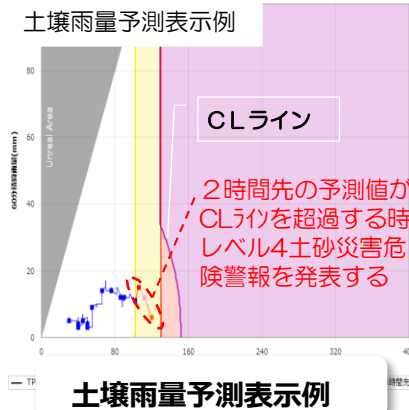
危険な箇所の調査を行い県ホームページに公表。市町村の作成している土砂災害ハザードマップの元となる情報

○土砂災害警戒情報システム

降雨の状況や予測により、土砂災害発生危険度の現在の状況や、将来の予測を1kmメッシュ毎に色分け表示、県ホームページやスマートフォンに提供



土壌雨量予測表示例



土砂災害危険度情報 1kmメッシュ

市町村	気象情報		土砂災害危険度情報*1		
	特別警報・警報・注意報	土砂災害危険警報	レベル	危険度	レベル
甲府市	注意報	-	2	注意	2
韮崎市	注意報	-	2	警戒	3
南アルプス市	警報	発表中	4	危険	4
北杜市	注意報	-	2	注意	2
甲斐市	注意報	-	2	注意	2
中央市	注意報	-	2	-	-
昭和町	注意報	-	2	-	-
山梨市	注意報	-	2	-	-
峡東	注意報	-	2	-	-
甲州市	-	-	-	-	-
市川三郷町	注意報	-	2	注意	2
早川町	注意報	-	2	注意	2

市町村ごとの危険度情報

危険度等の情報を提供することにより、住民や市町村に対し適切な避難行動が取られるよう支援している。

インフラ耐震対策の推進

～大規模な地震発生時に通行を確保するための橋梁の耐震対策～



○事業概要

大規模な災害発生時に早期の救助・救援活動をはじめ、物資供給やその後の復旧活動等を支える、緊急輸送道路の橋梁の耐震化を進めています。

- ①大きな地震が発生しても橋が落下しないようにしています
- ②橋脚を太くすることで地震に耐えられるようにしています



(一) 山梨笛吹線 四ノ橋 (整備前)



(一) 山梨笛吹線 四ノ橋 (整備後)

インフラ耐震対策の推進

～下水道管路の耐震対策～

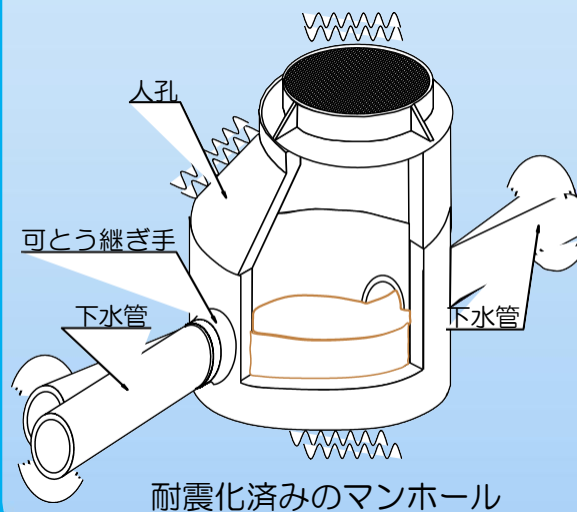
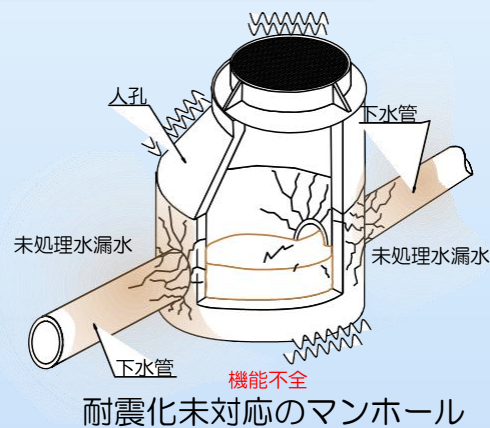
道路から隆起した 下水道マンホールの状況



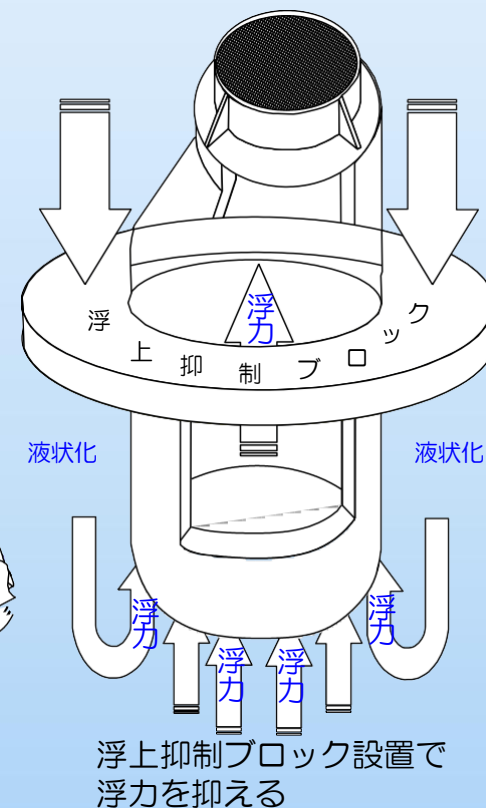
対策

下水道管路耐震工事 の対策工法

既設人孔耐震化工法



マンホール浮上防止工法



インフラの老朽化対策（長寿命化の推進）



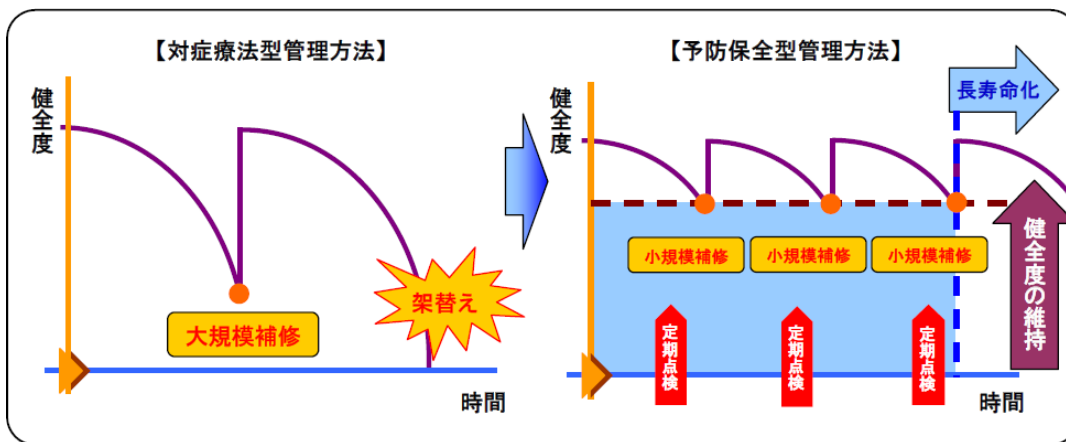
～老朽化が進んだ橋梁の長寿命化対策～

○事業概要

損傷が進行する前に早期に補修を行う予防保全型管理方法を実施することで、50年から60年と言われている橋梁の寿命を延命化させることで、長期的な維持・修繕、更新に係わる費用の縮減を図ります。

○これまでの補修方法 → 新たな管理手法へ転換

点検により橋面舗装の損傷を発見
損傷が進行する前に補修を実施



舗装下のコンクリートが劣化



悪いコンクリートを取り壊して



新しいコンクリートに



修繕工事の完成

インフラの老朽化対策（長寿命化の推進）

～老朽化が進んだ橋梁の長寿命化対策～



○事業概要

損傷が進行する前に早期に補修を行う予防保全型管理方法を実施することで、50年から60年と言われている橋梁の寿命を延命化させることで、長期的な維持・修繕、更新に係わる費用の縮減を図ります。

塗膜が劣化しているため、塗装の塗り替えを実施しました



（一）下部飯富線 飯富橋（整備前）



（一）下部飯富線 飯富橋（整備後）

インフラの老朽化対策（長寿命化の推進）

～下水道管路の長寿命化対策～

下水道管路更生 施工方法

流域管路の劣化状況



管路内の劣化状況



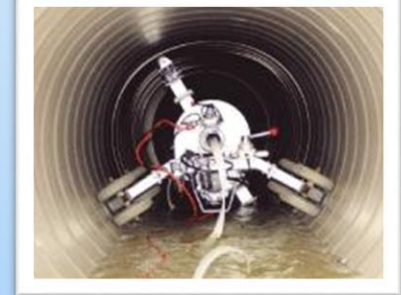
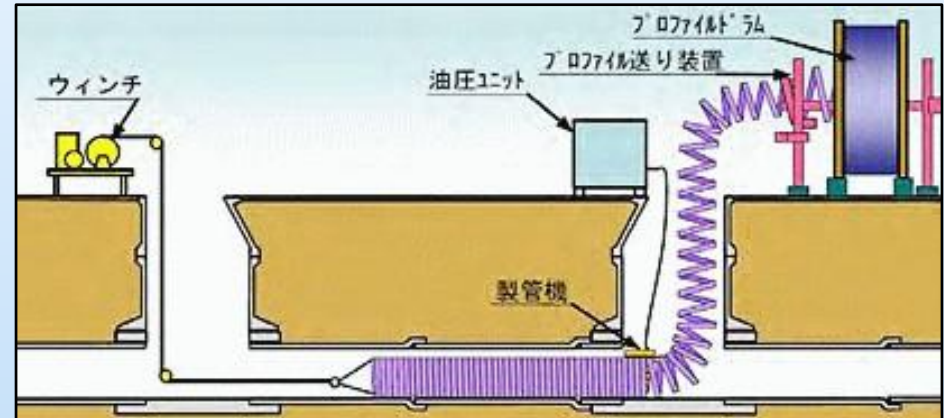
管路内の鉄筋露出

硫化水素等の影響によりコンクリートの劣化が促進され、管路の強度不足が生じる。

対策

長寿命化対策方法

[施工方法・全景]



プラスチック材による既存管路の内面被覆

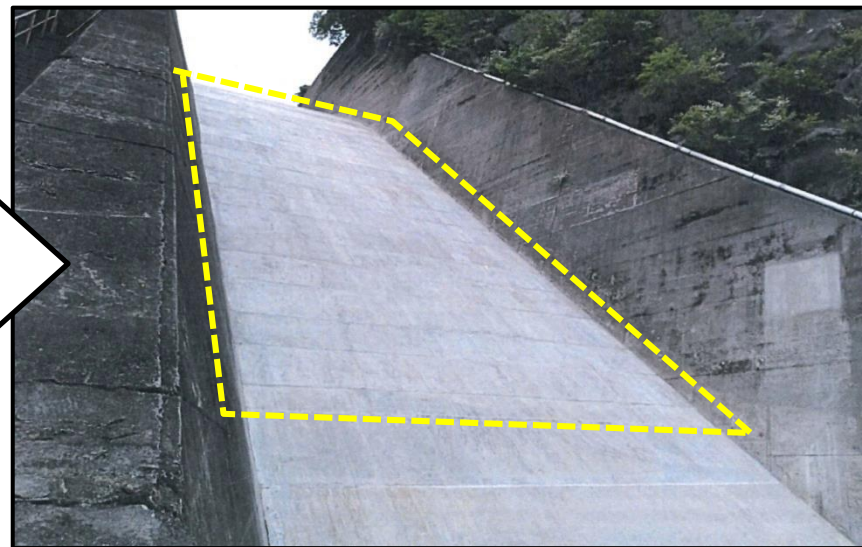
インフラの老朽化対策（長寿命化の推進）

～河川・ダム の長寿命化対策～

○水門の扉体の塗装(南アルプス市,横川)

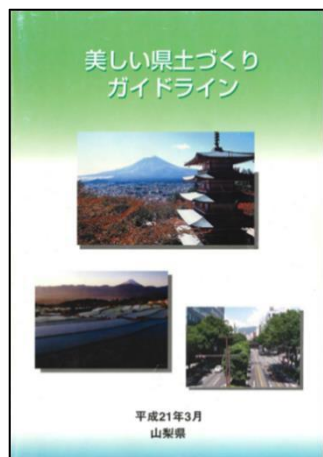


○洪水吐減勢工の改良イメージ(山梨市,広瀬ダム)



○県全体の景観づくりの方針の策定・誘導

県が「美しい県土づくりガイドライン」を策定して、県土全体の景観づくりの方針と施策の展開方策を市町村に示し、その方針に基づき、県内25市町村が、地域の特性に応じた良好な景観づくりを進める方針を定めた景観計画を作成しています。



美しい県土づくりガイドライン



25市町村が景観計画を作成

○広域的な景観づくりの推進

単独の市町村の取り組みだけでは解決できない行政区域を越える景観について、連絡調整する場として、景観行政団体連絡会議を組織し、広域的な景観づくりを推進しています。



甲州市フルーツラインから西側（南アルプス方面）を望む広域景観



笛吹市から北側（甲府北部火山地、八ヶ岳方面）を望む広域景観

良好な景観づくりの推進

～魅力ある景観づくりの取り組み～



○市町村と住民の景観活動への支援

市町村職員や県民の景観意識向上を目的とした景観セミナー、屋外広告物セミナーを開催しています。また、ワークショップ等により実践的なスキルの習得に取り組んでいます。



重要伝統的建造物群
保存地区
(早川町 赤沢宿)



ワークショップ



景観セミナー



景観セミナー チラシ



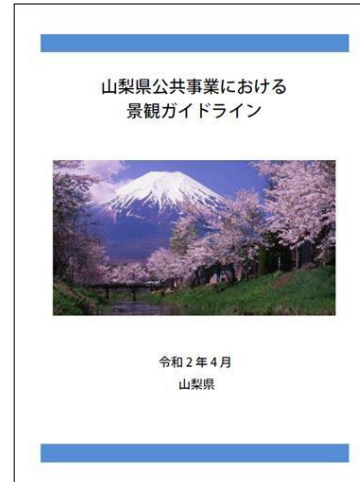
棚田の景観を守る活動



防護柵の塗替え活動

○公共事業を通じた良好な景観形成の推進

専門家からなる景観アドバイザーに意見を伺い、景観に配慮した設計を行うなど、良好な景観形成に取り組んでいます。



山梨県公共事業における
景観ガイドライン



電柱の地中化



東沢橋（北杜市）



田原の滝（都留市）



亀甲橋（山梨市）



景観アドバイザー

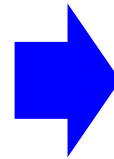
安全・安心な道路環境の確保

～どこでも、だれでも、自由に、使いやすく～

○事業概要

誰もが安心して通行できるよう、幅の広い歩道の設置や既設歩道の段差解消の整備等により、歩道空間でのユニバーサルデザインに取り組んでいます。

(主) 韮崎南アルプス中央線



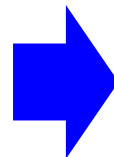
歩道のフラット化



○事業概要

通学路及び未就学児が日常的に集団で移動する経路等で、市町村や学校関係者、警察などと合同点検を実施し、重点的に安全対策を講じています。

(一) 島上条宮久保絵見堂線



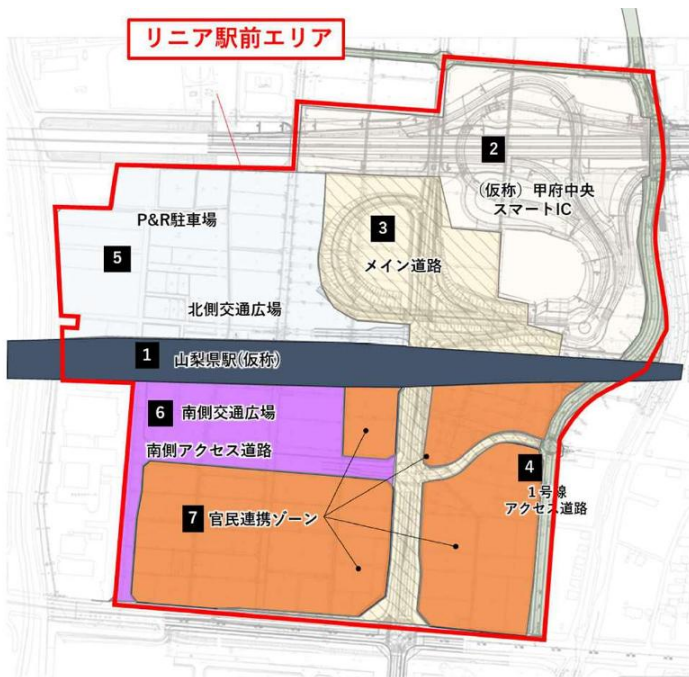
通学路の整備



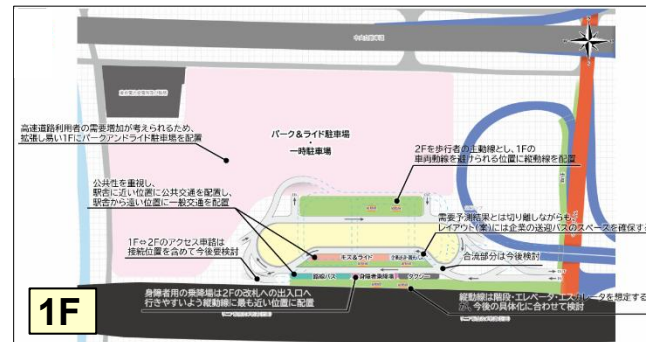
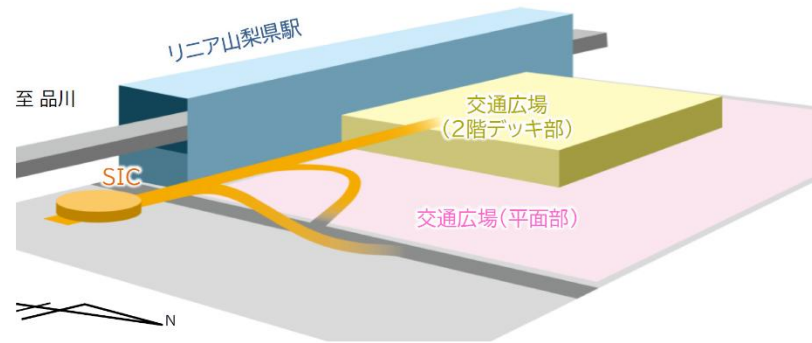
リニア駅周辺整備の推進

- リニア中央新幹線の山梨県駅（仮称）は、甲府市大津町地内に整備される予定です。
- 駅北側は、リニア開業効果を県全体へ波及させるため、山梨県が主体となり、交通広場やパーク＆ライド駐車場の整備を通じて広域的な交通結節機能の強化を図ります。 ※スマートICはNEXCO中日本が整備
- 駅南側は、地域の発展に直結するまちづくりとして、甲府市が中心となり、民間活用ゾーンと公的活用ゾーンを設定し、具体的な土地利用や施設配置の検討を進めます。

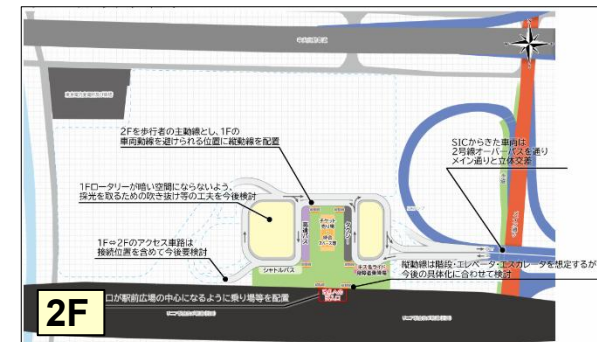
■ リニア駅エリアの事業区分 ※1



■ 北側交通広場の整備の方向性 ※2 至 名古屋



【ゾーニング・レイアウト(1F)】



【ゾーニング・レイアウト(2F)】

【出典】

※1：リニア山梨県駅前エリアの基盤整備方針(甲府市、R7.2策定)

※2：第3回リニア駅前エリア整備検討会議(山梨県、R5.3.27)

i-Constructionの推進

～省人化・効率化に向けた取組～



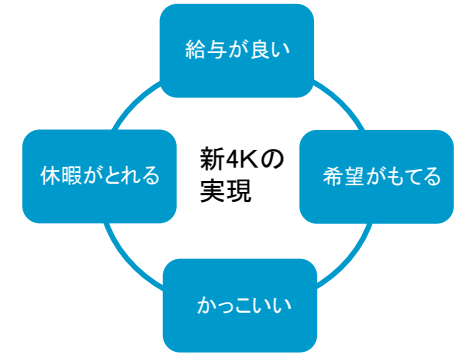
Oi-Constructionとは

i-Constructionは、建設現場の担い手不足に対応するため、ICT技術(情報通信技術)を活用して建設現場の生産性向上を図ることが目的です。ICT技術により、調査・測量から設計・施工・維持管理まで全プロセスの効率化を目指す取り組みを進めています。

3次元測量
ドローンやレーザースキャナーを使って現場の詳細な3次元データを取得し、測量作業を効率化

ICT建設機械
ICTを活用した建設機械を使用し、施工の省力化や安全性、品質向上を図る

3次元データの活用
設計、施工、検査、維持管理までのプロセス全体で3次元データを活用し、作業の効率化と品質向上を実現



これらの技術により、建設現場の生産性が向上し、作業の安全性や品質も高まります。
i-Constructionは、労働人口の減少や高齢化に対応し、建設業界の持続可能な発展を支えるために重要な役割を果たしています。

OICT施工技術の効果

OICT施工による工期の短縮



OICT施工による公共施設の品質向上

